

向井 治文(むかい はるふみ)先生のプロフィール

●勤務先 大和レディース・クリニック

●経歴 昭和54年 東邦大学医学部卒、東邦大学大森病院産婦人科入局

昭和56年 静岡県藤枝市立志太病院

昭和62年 帝京大学溝口病院・医学部講師・外来医長

平成7年 大和レディース・クリニック開設・院長

平成8年 東京女子医科大学東洋医学研究所講師兼任

●専門 産婦人科、一般内科、漢方全般



◆先生が初めて漢方と出会われたのはいつ頃ですか

昭和56年、医師として3年目に東邦大学大森病院産婦人科より、静岡県藤枝市立志太病院に派遣され、岡田研吉先生(現東京都町田市・岡田医院院長)に無理やり教え込まれたのが初めてです。

当時は『漢方なんて!』と言う感じでした。岡田先生が中国に留学された後は、林田和郎先生(現埼玉県鴻巣市はやしだ産婦人科医院院長)に鍼灸を仕込まれました。

静岡より帰り、帝京大学溝口病院に勤務していた時に、外勤先で東京女子医科大学東洋医学研究所佐藤弘教授にお会いし、これをきっかけで北里研究所東洋医学総合研究所にお世話になり、腹症をたたきこまれました。その縁で、東京女子医科大学の外来をお手伝いさせていただいております。

◆先生の御専門で漢方はどのような効果を発揮していますか

とにかく漢方がなかったら、何も出来ません。まず初めに西洋医学的診察(超音波を含め)を行い、これは西洋では手がないと思ったら東洋医学に移ります。漢方薬は大好きですが、すべてが漢方薬で治るとも思いません。

産婦人科では卵巣機能不全、月経前症候群、更年期障害、老人性膣炎などに漢方薬を投与しております。この1年で感激したのは、重症の無月経でホルモン剤副作用のため、

漢方のみを使用していた患者さんがきちんと生理がくるようになって御懐妊された事と、

漢方を初めて内服された方が、『生きていてこんなに調子がいい事はなかった』と言われた事です。最近では婦人科が初診で、婦人科の疾患は治癒し、受診をきっかけに他科の難治の疾患である、めまい、偏頭痛、花粉症、胃炎、慢性便秘、慢性下痢、慢性鼻炎、耳管狭窄、坐骨神経痛、変形性関節症等を治療する事が多くなりました。

また、このような病気の初診も増えてまいりました。

◆ 普段の治療で漢方薬と西洋薬との割合はどれくらいですか

インフルエンザのタミフルもまた大好きですが、ノロウイルスは五苓散がなければ話にならないと考えております。漢方薬8割、西洋薬2割といったところです。

◆ 10年後の漢方医療はどうなっている(またはどうあってほしい)とお考えですか

アセトアミノフェンを風邪に使わない時代が来ることを祈ります。

西洋医学、東洋医学両方に通じ、メリット・デメリットを考え患者さんにとってどちらが良いか使い分けが出来るお医者さんが現れることを期待します。

◆ 先生ご自身漢方を飲んで効果を実感なさったことがありますか

色々飲んで試しましたが、患者さんに頂いたノロウイルスは五苓散で著効でした。3回ほどノロウイルスを頂きましたが、1回目は五苓散1包で完治し、3、4時間先に家でビールと言って妻に怒られたのを覚えております。

2回目は、発熱もあり葛根湯と五苓散を使い一晩で良くなりました。



◆ これから漢方医を志す方に一言お願いします

まず西洋医学をしっかりマスターして漢方に入られたほうがよいと思います。今の時代、医学部で漢方を教えてくださるなんて、実戦漢方の私としてはうらやましい限りです。

西洋医学の診断(コンピューターの塊であるエコーや、DNA等を駆使する血液診断)には、やはりかなわないと思いますが、東洋医学は『みたて』の勝負と思います。

まず、たくさんお腹を触る事が大切だと思います。漢方を始めてから診療に対するストレス(この患者さんを治せるかなという)がなくなりました。

診断がつかなければ治療が出来ない西洋医学と違い、漢方薬を使って症状を取ってさし上げるようになったおかげです。

◆漢方に関心のある一般の方に一言お願いします

いろいろな難病の病気でも、まず西洋医学の専門家の先生に診察を受け、治療法があまりなければ漢方の出番と思います。

漢方も100%治せるわけではありません。過度な期待は禁物と思います。

治せなくても『みてた』の良い先生、あきらめない先生にめぐり合うのが大切と思います。そう言う先生は西洋から漢方に入り、西洋医学の限界を知り尽くしているはずですから。

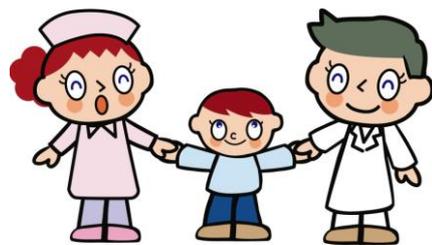
◆座右の銘、好きな言葉などありましたら教えてください

特にありませんが、人生まじめにやるが一番と思っております。

◆その他、ご意見ご感想などありましたらお聞かせ下さい

よくテレビ、新聞では『アメリカでは…』と言って日本の医学をたいしたことがないように言う風潮が見られますが、西洋医学をベースに診断し、西洋が手に負えない病気に漢方薬を使用する。

これはまさに世界最高レベルの医療と思います。
日本で医師になり、漢方を学べて幸せだったと思います。



注意:先生へのインタビューは、経歴以外、当会が2008年5月に行った内容です。